

みやまえ地域カルタ 有馬中学校区版

いつまでも、伝えたい、残したい、私たちのふる里

あ アリーノで学べ広がれ
コミュニティ

「アリーノ」は、有馬野川生涯学習支援施設の公募で決定した愛称です。平成21年5月に開設し、地域の生涯学習やコミュニティ交流の拠点となっています。地域図書室や児童室もあり、多くの子どもにも利用されています。

い 今と過去
つなぐ伝統
八木節よ

大正初期、有馬の青年が浅草で演じられていた八木節を持ち帰り、村の娯楽として紹介したのが始まりです。歌詞には、当時の有馬の姿や祭りの賑わいなどが歌い込められ、囃子方や踊り、衣装など有馬独特の八木節となっています。

う 植木の里
歩けば楽しい
鳥の声

宮前は自然に恵まれ、植木の栽培や農産物の生産が盛んでした。近年、宅地化が進んでいますが、植木づくりの農家が多く、植木畑を巡る散歩コースが、有馬を中心に野川、馬場などにわたって設定されており、四季折々の花や緑を楽しめます。

え 永遠に自然を
残そう
ふるさと公園

有馬ふるさと公園は、有馬の里山の面影を残す緑豊かな公園で、コナラやマザウラなどの自然林があります。斜面を利用して遊具が設置されているほか、砂場やブランコなど小さな子どもが遊ぶエリアもあります。

お お囃子が揺れる
秋祭り

毎年10月第一日曜日に、有馬神明神社の例大祭が行われます。例大祭当日、平成19年に完成した全長8m高さ3.5m重さ約2トンの大御神輿が、有馬・東有馬の町内を終日かけて練り歩きます。

か 語り継ぐ
大蛇の伝説
影取谷

有馬地区には、影取谷の大蛇の伝説があります。かつて有馬交番から梅林公園の付近が影取谷と近くは、影取大蛇の伝説の解説板が建てられています。

き 行列が
続く正月
神明社

江戸時代に編纂された「新編武蔵風土記稿」には、有馬村に神明社と杉山神社があったと記されており、その後明治43年の3社が合併され、有馬神明神社が誕生しました。毎年初詣の参拝客が、鳥居の外まで長い行列をつくりまわります。

く 栗の木を
見上げて育つ
有馬っ子

有馬小学校は、有馬の東部に位置しています。宅地化が進んでいますが、植木の里として、緑の多い恵まれた環境にあります。校舎には、かつて有馬で多く生育していた山百合と栗の木がデザインされています。

け 境内の
板碑にしるし
福王寺

板碑は、鎌倉時代に発生し死者の供養に立てられていた宝篋印塔や五輪塔を簡略化したもので、板石や塔婆と呼ばれる武蔵に流行しました。境内の建武4年(1337)の銘がある板碑は、高さが107cmあり、区内の174基のうち最大です。

こ 紅白の
梅がきれいな
梅林公園

有馬梅林公園内には、白梅、紅梅あわせて10数本が植えられています。梅の木はまだまだかな傾斜地にあり、花の季節には、梅の木の間に散策しながら、至近距離で梅の香りを楽しむことができます。

さ 三角点
首都を見渡す
梵天山

鷺沼北公園は、かつて梵天山と呼ばれていました。標高は84.7mあり、晴れた日の見晴らしは抜群で、都心の高層ビルも望めます。公園内には測量の基準点である二等三角点があります。

し 縄文を
土器が伝える
鷺沼遺跡

昭和30年代から40年代にかけて有馬、鷺沼周辺で宅地化などの開発にもない発掘調査が行われ、多くの土器等が見つかっています。

す 健やかに
育てと願う
地蔵尊

有馬神明神社の石段下の地蔵尊は、子育て地蔵と呼ばれており、子どもに健やかな成長を助け、村の安全や道行く人を見守っているといわれています。寛永2年(1749)に建てられ、今も多く奉納品に囲まれています。

せ 石塔に
馬の供養を
馬頭観音

馬は、農耕をはじめ交通や輸送の大切な働き手であったことから、亡くなった馬の供養に、馬が日頃なじんだ場所などに石塔が立てられました。有馬9丁目馬頭観音は、もともとは大山街道と王禅寺道の分岐点付近にありました。

そ そよ風に
白く輝く
梨の花

有馬では、昭和30年頃から多摩川梨の栽培が行われてきました。住宅街の一角で現存も、もぎ取りや直売などが行なわれています。梨の花は、ソメイヨシノに1週間ほど遅れて開花し、満開の時期には、梨園が一面に白く輝きます。

た 助け合う
福祉の心
れいんぼう川崎

れいんぼう川崎は、平成8年に開設した障害者支援施設です。在宅入所を問わず、川崎市内に住む重度身体障害者のためのリハビリテーション支援などを行っています。

ち 長善寺
植木供養の
阿彌陀如来

長善寺は、天正19年(1591)に創建されたお寺で、400年以上の歴史があります。境内には、植木供養塔があり、毎年3月のお彼岸のあと、宮前苗木植木生産組合の人々によって、植木の供養祭が開催されます。

つ 通学路
真っ赤に染めて
トウカエデ

西有馬小学校周辺の街路樹には、トウカエデが植えられており、秋には真っ赤に紅葉します。西有馬小学校のマスコットは、トウカエデにちなんで「かえでちゃん」、秋には「かえでまつり」が開かれます。

て 手を合わせ
豊作祈る
地神塔

かつて春分秋分に近い戊(つち)のえの日は、土を動かさない禁忌がありました。この日に作物の神様の地神さまをお祀りする講がもたら、豊作祈願をしました。地神塔の建立は明治期に盛んに行われました。

と 堂山の
歴史を受け継ぐ
カンアオイ

有馬中学校のある場所は、福土寺の前身(お堂)があったとされていることから、堂山と呼ばれています。校章にはタマノカンアオイが図案化されています。この葉の、じつくりと自己主張を忘れたに生き続ける貴実剛健な様を表しています。

な 長い旅
鶴見へ続く
有馬川

有馬川は、鷺沼地先が水源で、国道246号を横切ることで地表に姿を現します。川崎市内に注ぐ重慶身体障害者のための五反田橋付近で矢上川に流入します。矢上川は幸区南加瀬で、川崎市と横浜市が市境になっている鶴見川と合流します。

に 賑やかな
声こだまする
川崎北高

県立川崎北高校は、昭和49年に川崎市5番目の普通科県立高等学校として開校した宮前区内唯一の県立高等学校です。グラウンドからは、運動部が練習する賑やかな声が聞こえます。

ぬ 沼数多
鷺の飛来が
鷺沼に

鷺沼は、特定の沼の名前ではなく、国道246号から鷺沼小学校近くのいくつかの枝合をつなぐ日本精工のグラウンドまでの長い谷戸のことをいいます。ここには湿地が散在し、昭和41年の区画整理で鷺沼1丁目から4丁目になりました。

ね 願い事
学問成就の
天満宮

天満宮は、有馬4丁目の小高い丘にあります。創建年代は不詳です。その昔、影向寺方面から有馬に嫁いで来た人が、影向寺の見える高台に天満宮を祀ったと伝えられています。学問の神とされる菅原道真公が祀られています。

の 上りと下り
数が違うよ
幽霊階段

下有馬不動尊へ上る石段は、幽霊階段ともいわれています。階段を数える時、上りと下りで段数が違うからという説と、階段のある場所がうっそうとしていて幽霊が出そうだからという説があります。

は 八幡坂
大山詣での
急な坂

現在の鷺沼1丁目の鷺沼駅近くから国道246号線にかけての坂は、かつての大山街道の一部で、坂の途中に八幡神社があったことから八幡坂と呼ばれていました。かつては馬の医者や蹄鉄を作る家髪結い床などの商家が並んでいたそうです。

ひ 日射し浴び
ゆつくり登る
日向坂

日向坂は、下有馬交差点から川崎北高校入口交差点までの坂道です。昔この周辺を日向と呼んでいたことから、日向坂の愛称がつけられました。

ふ 富士山や
港も望む
尾根峯道

峯道は、現在は、横浜市との市境となっており、野川打越方面から菅生を経て王禅寺につながっています。江戸時代から続く尾根道で見晴らしが良く、天気の良いときは、横浜方面や富士山まで望めます。

へ 平成の今は
緑の丘の
有馬古墳

県営有馬団地近くのためき公園の隣にある有馬古墳は、境界に作られた塚、あるいは一里塚ともいわれています。詳細ははつきりしません。

ほ ほんぼこぼん
狸もいるよ
後谷

後谷は、有馬2丁目から東有馬2丁目付近まで延びる長い谷戸です。この地域でも、宅地化が進んできていますが、まだ畑や緑が残っており、狸が見られることもあります。

ま 末代に
伝える音色
有馬囃子

有馬囃子は、明治時代の末期、現在の横浜市都筑区北山田町に伝わる山手囃子を受け継いだものです。戦後に中断しましたが、昭和49年に地元の人々の熱意で復活させました。有馬神明神社の祭礼などで奉納されています。

み 宮前の
メロンは初夏の
風物詩

宮前メロンは昭和52年に宮前区の一部の農家がトマトの収穫後にメロンの栽培を試みたのが始まりです。かながわブランド「かわさきさき」にも認定されている宮前区の特産物です。

む 虫の音が
響く秋の夜
中央公園

有馬中央公園には、大小2つの広場があり、その間の斜面には大きなケヤキの林があります。ジャングルジムやブランコなど小さな子ども遊び場もあります。木々が多い公園で、秋には虫の声も聞こえます。

め メジロ来て
香る梅林
荒井谷

かつて、中有馬バス停付近から、有馬こども文化センターにかけての地域は荒井谷と呼ばれていました。下有馬不動尊近くには、梅林があり花の季節には梅の香が漂い、メジロが蜜を吸う姿も見られます。

も 猛練習
野球帽駆ける
子ども公園

有馬こども公園には公園周囲にネットが張られスコアボードも設置されており、野球やサッカーなど、球技をする子どもたちの練習にも使われています。滑り台、ブランコ、鉄棒、タイヤのブランコなどの遊具もあります。

や 八木節の
伝統つなぐ
青はっぴ

西有馬小学校八木節は、有馬八木節保存会の協力により始まりました。歌は小学校オリジナルで、梅や鼓、鉦(かね)お囃子、踊りのすべてを6年生が代々引き継いでいます。運動会では6年生が、校章入りの青はっぴ姿で披露します。

ゆ 夕暮れの
赤富士眺める
246

江戸時代に現在の国道246号の原形となる経路を辿っている矢倉沢往還が整備され、東海道の脇往還として利用されるようになりました。宮前区内は、上り下りが多く、西に向かう途中、何箇所かでは富士山も望めます。

よ よき湯かな
有馬に湧きいで
心身癒す

有馬療養温泉は、中有馬バス停近くにある赤茶色の温泉です。

ら ランドセル
弾む桜の
春待坂

この坂は西向き斜面のため、桜の開花が遅いので、春を待つというイメージから愛称として付けられました。朝、坂の下にある鷺沼小学校へ通う子どもたちの姿が見られます。

り 利用者で
混み合う朝夕
鷺沼駅

鷺沼駅は、昭和41年4月に開業しました。当初は大井町方面から4両編成で来た列車が2両を切り離し、以西は2両編成で運転していました。現在、駅にはバスロータリーがあり、朝夕は通勤通学の多くの人が行き交います。

る 瑠璃色の
空が映える
送電線

東京電力有馬変電所は有馬6丁目にあります。大きな鉄塔に送電線が渡されている眺めが見られます。

れ 歴史ある
寺社をつなぐ
神明坂

この坂の上には有馬神明神社があることから愛称として付けられました。近くには、福王寺、天満宮があります。周辺には、植木や果樹畑が広がり、牧歌的な風景が残されています。

ろ 路面に散る
黄色い銀杏の
有馬街道

有馬街道は、鷺沼から久末方面に有馬川と並行して延びる道で、途中は商店街や住宅が並んでいます。鷺沼駅と武蔵小杉駅などを結ぶバスが通っています。街路樹のイチョウは、秋が深まるころ黄色く色づいて美しいです。

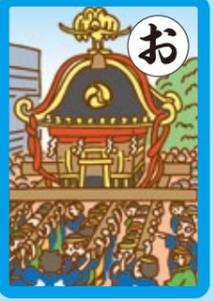
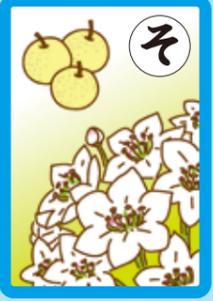
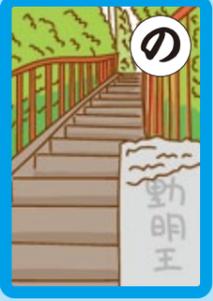
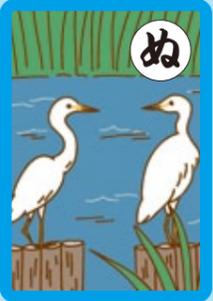
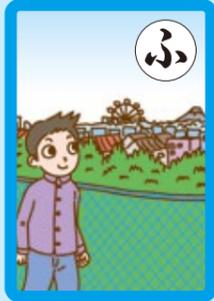
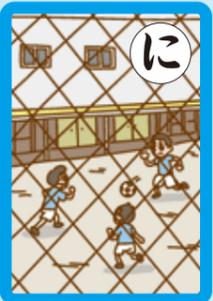
わ 湧き水と
ヤブツバキ咲く
不動尊

不動尊の前身は有馬にあった西明寺とされ、寺が小杉に移転後も本尊の不動明王は有馬に残り、地元住民の建てた御堂に安置されています。境内には大きなヤブツバキの木があり、以前枯れて切られた幹の下からも新芽が出ています。



みやまえ地域カルタ 有馬中学校区版

いつまでも、伝えたい、残したい、私たちのふる里



みやまえ

宮前区役所
みやまえカルタ制作実行委員会